

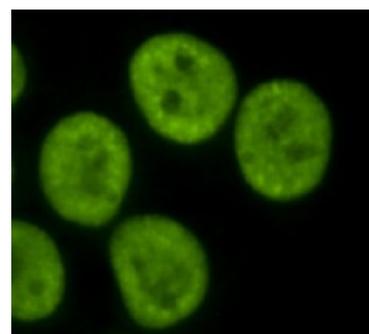
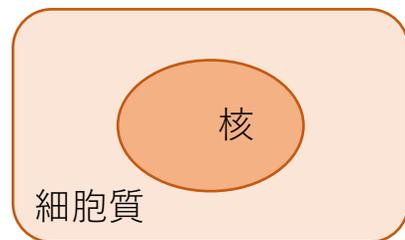
抗核抗体について

抗核抗体とは

いわゆる「自己免疫疾患」は、免疫の暴走により自己を異物(敵)と認識して攻撃してしまう疾患です。

その際に自己に対して産生される抗体を「自己抗体」と呼び、そのうち自己の細胞の核内成分に対して産生されるものを「抗核抗体」と言います。

ただし、例えば細胞質といった核外の細胞成分に対する抗体も抗核抗体と呼ぶことがあります。



抗核抗体陽性 (UpToDate より)

注意点

① 全ての膠原病・自己免疫疾患で抗核抗体が陽性になるわけではない

実は抗核抗体と関連がある膠原病は多くありません。右図に挙げたものが抗核抗体関連膠原病と呼ばれる疾患になります。

また、抗核抗体関連膠原病でも必ず抗核抗体が陽性になるわけではありません。

	陽性率
全身性エリテマトーデス	95-100%
全身性強皮症	60-80%
混合性結合組織病	100%
皮膚筋炎/多発性筋炎	60%
シェーグレン症候群	40-70%

(Rheumatology 7th ed.より)

一方、全身性エリテマトーデス(SLE)はほぼ全例で抗核抗体が陽性になるので、抗核抗体陰性であればSLEの可能性はかなり低いと言えます。

② 抗核抗体は健常人でも陽性になることがある

抗核抗体は、通常「陰性, 40倍, 80倍, 160倍...」というように値を表記します。ある研究では、健常人のうち31.7%が40倍、13.3%が80倍だったと報告しています。 (Arthritis Rheum 1997;40:1601-11.)

抗核抗体陽性のみでは膠原病・自己免疫疾患とは言い切れません。より詳しく調べる必要があるかもしれないので、医師に相談してください。